

左京区民の声にもとづく要望と提案

京都市長 門川大作様
左京区長 池内正貢様

2018年8月10日 左京自治体要求連絡会 代表 川上裕光

左京自治体要求連絡会が、今年に入ってから、左京区全域に配布した「暮らしと要求アンケート」に、2,800通を超える返信が寄せられました。

「生活実感」については、「苦しい」「やや苦しい」と答えた方が38.8%（「ゆとりがある」「ややゆとりがある」が16.3%）となっており、4年前より「苦しくなった」「やや苦しくなった」と答えた方が42.5%（「良くなった」「少しは良くなった」が8.7%）と、生活の厳しさが増している実態が示されています。

また、「左京区に住み続けるために充実して欲しいこと」（複数回答）については、「介護」「医療」「福祉」がそれぞれ35%前後と1番多くなっていますが、次に多い「交通アクセス」33.4%、「お店」23.2%、「支所など区役所機能」19.7%などは、左京区の大きな特徴と言えます。

「働き方で困っていること」では「給料が少ない」「給料が上がらない」が多く、「子育てに関して望むこと」では、「保育所への全員入所」「子どもの医療費の無料化」が多くなっています。「行政（アンケートでは京都府）に優先して取り組んで欲しいこと」では、国保・介護・医療など福祉施策への要望が多くなっていますが、10代～40代に限ってみると「給付制奨学金」が多数となっています。

以上のような特徴を踏まえた上で、切実と思われる課題及び要望について以下に書き出しました。行政のみならずにもぜひ知っていただくとともに、課題の解決のために、ともに考え、行動に踏み出していきたいと考えています。よろしくお願ひします。

なお、アンケートに寄せられた声で特徴的なものを抜粋して、別紙に資料としてまとめました。ぜひご一読ください。

課題及び要望

1. 国保・介護・医療など、社会保障の充実

- ① 国民健康保険料・介護保険料を値下げすること。
- ② 介護施設を増やすこと。在宅でも安心して介護を受けられるようにすること。
- ③ 年金の支給額を増やすこと。
- ④ 生活保護水準の方が適切に制度を受けられるようにすること。市民の生活を守り応援する体制をつくること。

2. 公共交通の充実・住み続けられるまちづくり

- ① 敬老乗車証を現在の制度で存続させること。
- ② 区役所への交通アクセスの改善を図ること。南部に支所をつくること。
- ③ 北白川・修学院学区以北及び下鴨三学区以北のバス（市バス・京都バス）の増便・増発を図ること。
- ④ 北泉通りの拡幅・架橋工事をやめること。

3. 子育て・教育環境の整備

- ① 子どもの医療費を中学校卒業まで無料化を拡充すること。
- ② 希望者が全て入れるよう認可保育所を増設すること。
- ③ 全員制の中学校給食を実現すること。給食費の無償化を目指すこと。
- ④ 給付制奨学金制度を創設するなど教育費負担の軽減を図ること。

4. 働く環境の改善

- ① 賃金の引き上げに向けた取り組みを強化すること。時給 1,000 円をただちに実現し、1,500 円を目指すこと。
- ② 保育士・看護師・介護職などの処遇の改善を図ること。
- ③ ブラック企業の根絶・長時間勤務の改善の取り組みを強化すること。

5. 安全・安心に暮らしていくために

- ① 都市型地震対策の具体化及び豪雨対策の充実を図ること。6月の地震・7月の豪雨を踏まえ、避難所の確保や避難計画の見直しを行うこと。
- ② 民泊対策を強化すること。呼び込み型観光政策をあらため、市民生活と観光客の調和を図ること。
- ③ 若狭の原発の稼働を中止し廃炉の決断をするよう国と関西電力に求めること。